

# アメリカ教育学会第35回大会プログラム

Japan Association of American Educational Studies  
The 35th Annual Conference

日時：2023年11月11日（土）  
場所：関西学院大学上ヶ原キャンパスG号館  
主催：アメリカ教育学会

大会ホームページ：<https://www.jaaes.org/taikai2023>  
大会連絡先：[JAAES2023kwansei@gmail.com](mailto:JAAES2023kwansei@gmail.com)

## 【大会日程】

9 : 30～	大会受付 (G号館 2 階 玄関ホール)
10 : 00～12 : 15	自由研究発表 I (G号館 2 階 203)
	自由研究発表 II (G号館 2 階 204)
12 : 15～13 : 10	昼食休憩 (シンポジウム関係者打ち合わせ G号館 2 階 202)
13 : 10～14 : 10	総会 (G号館 2 階 201)
14 : 20～16 : 40	公開シンポジウム (G号館 2 階 202)
17 : 00～18 : 00	情報交換会 (学生会館旧棟)

## 【大会参加要領】

### 1. 事前メール受付のお願い

- ・大会に参加予定の方は、10月31日（火）までに大会参加申込（大会ホームページより）と参加費の支払いをお願いします。参加申込をされたかたに、大会の数日前に、発表要旨集（PDF版）をメールで送信します。紙版の発表要旨集は作成しません。
- ・当日参加もできます。
- ・自由研究発表者、シンポジストの方も情報交換会への参加・不参加をお知らせください。
- ・情報交換会についても、ご予定を大会ホームページからお知らせください。

### 2. 受付

11月11日（土）9 : 30 から G号館 2 階玄関ホールで行います。

### 3. 学会費（大会受付とは別に、学会の臨時受付機を設置します）

- ・会員で会費未納の方は、年会費（正会員 6,000 円、学生会員 5,000 円）を納めてください。
- ・当日、新規入会をご希望の方は、入会金 1,000 円を添えてお申し込みください。

### 4. 大会参加費（『発表要旨集録』代を含む）

正会員・臨時会員：2,000 円

学生会員：1,000 円

### 5. 情報交換会：1,000 円程度

軽食のみです。アルコール類は提供しません。状況により、中止の可能性があります。

### 6. 昼食

大学の生協が開いています。また、近隣にコンビニもありますのでご利用ください。

### 7. 理事会については、事務局から別途連絡がいきます。

### 【自由研究発表要領】

- ・発表時間：発表 20 分・質疑 5 分（計 25 分）
- ・発表に必要な資料は、各自 30 部ご用意いただき、大会当日にご持参ください。
- ・発表会場には、パソコン、プロジェクター、スクリーンが常設されています。

### 【会場フロアマップ】

上ヶ原キャンパスG号館2階



## 自由研究発表

自由研究発表 I 11月11日(土) 10:00~12:15 G号館2F 203

【司会】長嶺 宏作(埼玉大学)

倉本 哲男(静岡文化芸術大学)

10:00~10:25

○八尾坂 修(玉川大学)

米国都市部のニーズの高い学校における教員の離職・定着と学校組織環境との関係性

10:25~10:50

○寶來 敬章(高田短期大学)

刑務所内チャータースクールにおける教育実践

10:50~11:15

○小島 佐恵子(玉川大学)

アメリカの大学における専門職員は学内でどのように認識されているのか  
—student affairsを中心に—

11:15~11:40

○西村 史子(共立女子大学)

フロリダ州にみる universal education choice の完成

11:40~12:05

○新谷 龍太郎(同志社女子大学)

米国インクルーシブ保育のアカウンタビリティ

12:05~12:15

全体討議

自由研究発表Ⅱ 11月11日(土) 10:00~12:15 G号館2F 204

【司会】澤田 稔(上智大学)

中野 真志(愛知教育大学)

10:00~10:25

○森 久佳(京都女子大学)

デューイ実験学校に対する批判的考察の意義と可能性

—歴史的神話の視点を踏まえた「実験」の意義の再評価を志向して—

10:25~10:50

○宮野 尚(信州大学)

1910年代のウィネトカ公立学区における教育改革の構想

—教育委員のバックグラウンドに注目して—

10:50~11:15

○岩田 弘志(NPO法人熊本オルタナティブ教育協会)

ホームー T. レーンの少年感化院教育が1960年代フリースクール運動に与えた影響

11:15~12:05

○黒田 友紀(日本大学) ○宮古 紀宏(国立教育政策研究所)

米国の学校アカウンタビリティにおける「学校風土」に関する研究

12:05~12:15

全体討議

## アメリカ教育学会第 35 回大会 公開シンポジウム

アメリカにおける環境教育の歴史と現状と課題：学校教育に何ができるか

会場：関西学院大学上ヶ原キャンパス G号館 202号室

日時：2023年11月11日（土）14時20分から16時40分

### シンポジウムの趣旨

環境問題が深刻さを増している。環境汚染、生物多様性の危機、地球温暖化、巨大ハリケーンの襲来など、人類は存続すら危ぶまれる状況に直面している。「持続可能な開発目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」が注目されるようになってきているのは、危機感の現れといえるが、それが状況の改善に必ずしもつながっていない。地球温暖化はとどまりそうになく、それどころか、SDGsは、「目下の危機から目を背けさせる効果しかない。…苦悩を和らげる大衆のアヘン」(斎藤幸平)と断言する人もいる。環境問題は次の世代になるほど深刻さを増す。したがって、次の世代を育てることに取り組んでいる現代の教育者は、子どもがよい環境の中で生きていけるようにするために、その責任を果たさなければならない。

では、私たちは次の世代にどのような環境を残そうとしているのだろうか。本シンポジウムでは、アメリカにおける環境教育の歴史と現状を紹介し、現代における環境教育の課題について議論してみたい。

広大で豊かな自然に恵まれたアメリカは、フロンティアを開拓しつつ国家を作り上げた。自然は克服の対象であった。トランプ前大統領がパリ協定から離脱したことに見られるように、自然は利用すべきものであって、環境問題を軽視する考え方は、いまでも国内には根強くある。その一方で、自然保護のための運動は、アメリカでも19世紀から始まっていた。1872年に世界最初の国立公園法が制定され、その後、自然や動物を保護しようとする市民運動は、20世紀後半になると徐々に広がっていった。

この二つの方向を、自然を利用するか、保護するか、という二者択一 of 思想としてとらえてはならない。自然のなかで、人間がどのように生きていくかという課題とつなげて考えなければならない。それは、環境倫理ということになるであろう。学校教育のなかで環境倫理がどのように構想され、教えられてきたのか。その歴史と現状と課題について、アメリカの環境教育に関心を向けている3名の研究者から問題を提起していただく。それを起点として議論を深めていきたい。

提案者1：宮本健市郎（関西学院大学）：環境教育の起源としての自然学習

提案者2：荻原彰（京都橘大学）：学力重視の教育改革と環境教育

提案者3：加藤智（愛知淑徳大学）：総合的な学習の時間と環境教育

司会：大倉健太郎（武庫川女子大学）、湯藤定宗（玉川大学）

アメリカ高等教育史  
その創立から現在まで  
The History of American Higher Education: Learning and Culture from the Founding to World War II

# アメリカ高等教育史

R・L・ガイガー著 原圭寛他訳

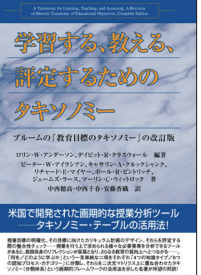
A5・744頁・9460円

17世紀のカレッジ創設から米国の高等教育は始まった。宗教戦争から科学技術の発展、世界大戦期と様々な事件とそれに基づく改革を展開し遂げてきた。その400年の複雑な歴史を、創設期から丁寧に綴った待望の訳書！  
続巻（戦後から現在までの高等教育史）も刊行準備中。

## 学習する、教える、評定するためのタキソノミー

L・W・アンダーソン、D・R・クラスウォール編著 A5・480頁・6490円  
中西穂高・中西千春・安藤香織訳

米国で開発された画期的な授業分析ツール「タキソノミー・テーブル」活用法の待望の邦訳！授業を行う上で求められる様々な必要要素を分析できるツールとして「何を／どのように学ぶか」をそれぞれ「4つの知識タイプ／6つの認知プロセス・カテゴリー」に分類し、それらを二次元マトリクス上に重ね合わせたタキソノミー（分類体系）という卓越的フレームワークの活用法を示し、教育の質向上を促す画期的名著。



### 教育グローバル化のダイナミズム

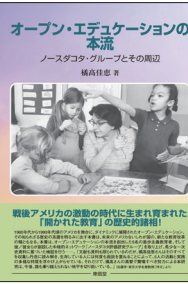
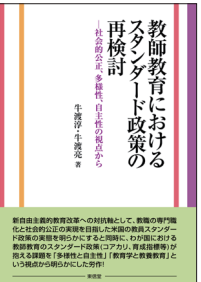
J・スプリング著 監訳 北村友人  
A5・上製・360頁・3960円

近年、教育の効率化が進められ、グローバルに通用するスキルが求められるようになって久しい。OECDをはじめとした教育戦略の実態を追い、様々な教育問題を包括的に考える優れた時宜を得た書。

### 教師教育におけるスタンダード政策の再検討

牛渡淳・牛渡亮著 A5・248頁・3740円

教職専門職化と社会的公正を目指した米国の教員スタンダード政策の実態を明らかにし、日本における教師教育政策が抱える課題を多様性と自主性と教育学と教養教育の視点から明らかにした労作！



### オープン・エデュケーションの本流

橘高佳恵著 A5・240頁・4730円

1960年代から90年代の米国で展開されたオープン・エデュケーションの本流を創出した五名の進歩主義教育者と彼らが創設した「ノースダコタ評価研究グループ」の実践を詳細に検証する。

### 米国シカゴの市民性教育

久保園梓著 A5・240頁・4730円

米国でも貧困地域の子どもへの市民性教育が排除されている。本書は、様々な学校と地域住民や支援団体らが連携した市民性教育の豊富な実践を取り上げ、日本へ示唆する。

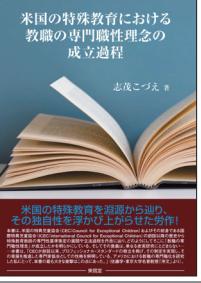


現代アメリカにおける学力形成論の展開 石井英真著 A5・五三三頁・五二八〇円  
空間と時間の教育史 | アメリカの学校建築と授業時間割からみる 宮本健市郎著 A5・二二八頁・四一九〇円  
米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜 福嶋祐貴著 A5・二六〇頁・三九六〇円  
アメリカ教育例外主義の終焉 J・ヘニグ著 青木栄一監訳 A5・三三〇頁・三九六〇円  
現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革 古田雄一著 A5・三二二頁・四六二〇円  
アメリカ大学史における女性大学教員支援政策 坂本辰朗著 A5・二四八頁・三二二〇円  
アメリカの大学のかさど強さのメカニズム 長野公則著 A5・四六四頁・五〇六〇円  
米国高等教育の拡大する個人寄付 福井文威著 A5・三〇四頁・三九六〇円

### 米国の特殊教育における教職の専門職性理念の成立過程

志茂こづえ著 A5・312頁・4730円

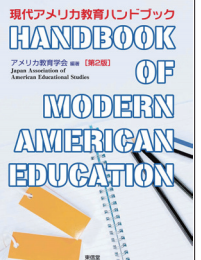
米国国際特異児童協会創設以降の歴史から特殊教育専門性基準策定の展開と立法化を丹念に調査研究し、専門職性理念の成立を歴史的に明らかにした労作。



### 現代アメリカ教育ハンドブック [第2版]

アメリカ教育学会編 A5・328頁・3960円

現代アメリカ教育を読み解くキーワードを約10年ぶりに改訂。「分野別目次」を新たに追加、新たな52項目を増補、初版重要18項目に補筆を行った、全153項目のアメリカの教育ハンドブック。



**東信堂**

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6  
HP <http://www.toshindo-pub.com>  
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514  
✉ [toshindo.onlineorder1985@gmail.com](mailto:toshindo.onlineorder1985@gmail.com)  
✉ [tk203444@fsinet.or.jp](mailto:tk203444@fsinet.or.jp) (代表)

\* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

アメリカ教育学会第 35 回大会プログラム

2023 年 9 月 10 日発行

発行者：アメリカ教育学会第 35 回大会準備委員会

委員長：宮本健市郎（関西学院大学）

委員：矢野裕俊（武庫川女子大学）

委員：大倉健太郎（武庫川女子大学）

委員：片山紀子（京都教育大学）

委員：西口啓太（関西学院大学）

〒662-0827

兵庫県西宮市岡田山 7-54

関西学院大学 教育学部 宮本健市郎

連絡先：[JAAES2023kwansei@gmail.com](mailto:JAAES2023kwansei@gmail.com)

[kmiyamot@kwansei.ac.jp](mailto:kmiyamot@kwansei.ac.jp)

phone & fax: 0798-52-4403（大会当日は受信不可）